

○小閣…小さいたかどの。ここでは「小さい門扉」と訳す。

「閣」は、門の両側にある長い杭、開いた門扉をとどめ抑える用をなすもの、転じて高樓・御殿の意となる。ここでは前者の意を取り、「小さい門扉」と解した。『白氏文集』「097 重題其三」に「日高睡足猶慵起、小閣重衾不怕寒」の句があるが、これは白居易の新築した小さな草堂を指す語。

『漢辞海』は「遊びや展望のため、また仏像や蔵書を納めるための四周に扉を設けてある建築物」という説明をする。先の白詩の例とも合わせて、「小さな部屋・小建物の扉」と解することも可能である。

26 ○観 …見る。睹の古字

〔説文〕 睹、見也、觀、古文从見。

○遐阡…遠い南北の道。はるか遠い南北の道。官舎の前の大宰府政庁に通じる南北の幹線道路。

「遐」は「はるかに遠い、とおい」の意で、「阡」は「南北の道」を指す。

『文選』潘岳「藉田賦」に「遐阡繩直、邇陌如矢。〔注〕劉曰、風俗通曰、南北曰阡、東西曰陌。」の一文が見える。

27 ○嘔吐…反吐を吐く。もどす。素問、『六元正紀大論』に「身熱頭痛嘔吐」の一文が見える。

○逆 …さからう。ここでは（胸が）むかむかする意。

28 ○虚勞…衰弱疲労すること。虚耗、虚癆。『南史』「宗彭城主義康傳」に「文帝有虚勞疾、每意有所想、便覺心中痛裂」の一文が見える。

○癡 ……戀。①病む。『廣韻』に「癡、病也」の説明がある。②病んで体ががまる。『集韻』に、「癡、病